

このコーナーでは長年、市内の小中学校で教職にあつた蛭田光城さんが市立図書館発行の「成田のむかし」に執筆した成田の昔の暮らしの様子を掲載していきます。

苗代

文

蛭田光城

絵 野上和彦

※【苗代(なわしろ)】
もみをまいて稲の苗を育てるところ。

太郎兵衛さんのお宅で、普通りの作り方をしているというので、お訪ねしました。

太郎兵衛さんは、七十くらいのお年寄りでした。

「おじいさん、苗はどうやって作るの？」と聞くと、

「そうだなあ。」

と深く息を吸いこんで、次のようなお話をしてくれました。

種もみのこと

(1) 選別 まず種もみを取り出す。ねずみが入ったりして、ごみがあるので、ふるいでふるってきれいにする。

(2) 塩水選 濃い塩水を作って、その中へひたす。塩水は真水より比重があるので、実のいっばい入っていないもみは浮かぶ。それを取って捨てる。

(3) 良い種だけを取って水洗いし、小さな俵へ入れる。

(4) 小さい俵は、種井(この辺りではタネエといっているが本当は種井)の中へつける。

苗代から種まき

(5) 苗代、うなつてある田を、もういちど耕し、稲の株などは深く埋め、肥料を入れて平らにならす。

(6) 苗代のまわりへは、小さな溝を作り、水が流れるようにする。

(7) 苗代の中へ幅一メートルぐらいのうねを作る。うねとうねとの間は、人が歩けるように、三十センチぐらいあけておく。

(8) 種井から出した種籾をかかわして、うねの中へ平均にまく。

「ぎつとこんなことだな。種をまく季節は四月下旬だけど、その年の陽気によって違うんだよ。ちょうどスオウの花の咲くころがいいんだ。柱暦よりも花暦の方が確実なんだ。稲もやがて花を咲かせる植物だものね。」

おじいさんは、寒い中で、稲をいたわるような口ぶりで話してくれました。

編集後記

私が西中学校を卒業した昭和49年の学級数は7クラス。ニュータウンに入居が始まり、生徒増から途中で1クラス増えたように記憶しています。7クラスでも十分大規模ですが、平成25年想定では1学年9クラスとさらに過大規模校に。学校適正配置は、子どもたちの将来に、そして地域にとっても、非常に重要な問題です。ぜひとも皆さんの貴重なご意見をお寄せください。



成田市役所本庁舎(行政棟、議会棟、消防本部、成田消防署)はISO14001の認証登録を受けています。

平成20年4月15日号 No.1121 成田市のホームページ <http://www.city.narita.chiba.jp>

